

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373300546		
法人名	社会福祉法人 不二福祉事業会		
事業所名	グループホーム すずらん		
所在地	愛知県蒲郡市竹谷町奥林29-1		
自己評価作成日	平成25年10月20日	評価結果市町村受理日	平成26年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人一人の個性を大切に、その方の今出来ることをして頂き、共に寄り添うケアを心掛け、実践している。また、ご本人の意思や自己決定に沿って、出来る力を発揮することができる環境を提供している。地域の行事に積極的に参加し、地域との関わりの中で、地域の方々に理解を得て、安心して生活出来る環境作りに努めている。ボランティアさん、家族の方が気楽に訪問でき、共に支え合う関係が作られている。外出などの年間行事が多く、生活に張りを持って頂いている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigvosyoCd=2373300546-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、利用者一人ひとりができることを前向きに取り組んでもらうように努めており、職員は、利用者に対して「ありがとう」と言える関係をつくるように取り組んでいる。その取り組みを通じて、利用者の意欲を引き出し、自分自身の残された能力を活かしながら、自分の居室の掃除をしたり、職員と一緒に買い物に出かけたりしており、グループホームとして目指すべき大切な取り組みを継続している。日常生活の中では、毎日買い物に出かけていることで、利用者が目的を持った外出を行っている他、年間行事計画の中で、市街に遠出する機会をつくっており、利用者の身体機能の維持にもつながっている。また、リビングが食堂、洋室、和室と3つの空間に分かれていることで、利用者はその時の気分で過ごすことができる。理念にある、「ゆっくり、ゆったり、楽しく過ごして頂く」生活が実現している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成25年11月27日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	katte	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を、出勤時などに確認する事で、常に意識し日々の支援に努めている。また、ミーティング時などにも話し合い、理念に基づいた支援の統一を図っている。	職員間の意見を加えながら、5項目にわたる理念を掲げており、誰にでも分かる内容となっている。理念を玄関に掲示しており、管理者は、新入職員にも、理念に基づいた生活を考えてもらうように伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民として自治会に加入しており、盆踊りやお祭などの行事に参加している。また、地域の方達に畑のボランティアに来て頂いたり、小・中学生が訪問に来たりなど、交流も行なっている。	ホームでは、地域の祭事に参加した際には、お菓子をもらうなど、ホームと地域の方との関わりが深まっている。また、ホームで開催したバーベキューの際には、地域の方の参加も得られており、相互の交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	買い物や散歩などの外出で地域の方との交流の機会を持ち、認知症の方の理解を少しでも得られるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区の役員の方や、市の担当者を招いて、日頃のホームの様子や、外部評価結果を報告し、当ホームを理解して頂くよう努めている。また、意見を聞き、サービスの向上に活かしている。	ホームでは、会議を通じてホームの行事を行うことで、出席者にありのままを知ってもらうように取り組んでいる。その中で、出席者より、AEDに関する質問が出されるなど、運営につながるような意見も出されている。	会議に家族が出席する機会が少ないのが現状である。家族にホームでの取り組みを知ってもらうためにも、継続した働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護サービス事業所の連絡協議会に参加し、他事業所との情報交換や運営推進会議にてホームの様子を伝えており、随時協力をお願いしている。	管理者は、市内の介護事業所が集まる連絡会に出席していることで、定期的な情報交換の機会としている。また、地域包括支援センター職員とも、運営推進会議の機会を利用して、情報交換に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の人権を守るという事で、玄関、門扉などは、夜間以外は施錠をせず、自由な暮らしを支援している。来客や外出者が分かるようにセンサーを活用。外出する入居者に対しては職員が付き添うようにしている。	ホームは、身体拘束を行わない方針のもと、玄関の施錠をはじめ拘束につながる対応を行っていない。また、言葉かけに関する学習会を開催して確認したり、外に出る方にはその理由を考えるように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングにて高齢者虐待防止関連法について勉強会を実施している。虐待の事実はない。		

自己	外部	項目	自己評価	katte	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する資料を配布し、勉強会を開き、制度についての理解を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際、家族や利用者に納得して頂けるように説明し、同意を得ている。解約する際も、相手の立場になって考え、今後の生活についての不安が、少しでも小さくなるよう相談に乗っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から面会がある際に家族の意見や要望を聞く機会を持つように努めている。	ホームでは、食事会を兼ねた家族会を年1回行っている他、利用料の支払いでホームに来てもらっていることで、個別の報告を行いながら、意見や要望のが把握につなげている。また、共通した報告として、ホーム便りを毎月作成している。	定期的に行っている家族との意見交換で出された意見等を日報や申し送りノートにも反映して職員間で共有していくことで、より信頼関係が深まると思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティング以外にも、日々の支援の中で、気付いた事等をその都度話し合い、支援に繋げている。	ホーム内の会議を月1回行いながら、職員からの意見や要望等と出してもらい、それらの意見を管理者が法人に伝えている。また、管理者により、年1～2回の個別面談の機会をつくっており、職員に目標を立ててもらいながら把握に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自、一年の目標を提出しており、それに向けて業務に取り組んでおり、毎月目標に対しての取り組みを記入し、自己確認している。人事考課にて、各自が向上心を持って働けるように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は段階に応じて、パート職員もチームの一員として、研修に参加できる機会を作っている。研修後はレポート提出や随時ミーティングで報告し、知識・技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡協議会に参加し、同業者と情報交換をしている。同法人内のグループホームとは、年2回の合同の行事を行ったり、2ヶ月に1回の合同会議にて情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	katte	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接でこれまでの生活歴を聞き、本人の求めていること、不安なことを理解し受け止め、本人の思いや意向をくみ取り、支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所当初は、近況報告を密に行なうなど、常にコミュニケーションを図り、何でも話しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人と家族のニーズを把握し、共有することで信頼関係を築き情報等を確認、見極めながら対応に努めている。家族がいつでも相談できる関係を作り、サポートしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の家事に対しても入居者主体で支援している。利用者の生活の場であることを常に頭に置き、日々の関わりを持つようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	これまでの家族関係を理解し、入居者の情報を共有することで、共に支え合う関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に通っていた場所へ継続して通えるよう支援したり、また友人、知人の面会もあり、馴染みの人との関係が途切れないように支援している。	利用者の中には、馴染みの友人との交流を継続している方がおり、友人がホームに訪問したり、暑中見舞い、年賀状等の手紙のやり取りを継続している方もいる。また、家族とも喫茶、食事、理美容等に出かけている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人一人の個性を大切にし、コミュニケーションが取れるようサポートしている。気の合う人と買い物や散歩に出掛けたり、共に支え合えるような支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	katte	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移り住む先の関係者に対して、本人の状況、習慣、好み、ケアの工夫等の情報提供や相談に応じている。退所後にご家族が来苑され、近況報告して下さる方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン立案時には本人とゆっくり話す時間を持ち、生活への希望や意向、本人の思いを聞き取りケアプランへ反映させ、支援に繋げている。	職員は担当制であり、利用者の把握に取り組むとともに、申し送りノートに細かな情報の記載を行うようにしている。それらの情報は、申し送り時に共有につなげている他、定期的に行っているカンファレンスの際にも話し合いを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所申し込み時に、生活歴、生活環境、一日の暮らし方、趣味、病歴等を聞き取り、ケアプランに盛り込んでいる。また、家族やケアマネジャーからも情報聞き取りを行ないケアプラン作成に盛り込んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の出来ること、出来ないことを把握し、ケアプラン作成し、支援している。また、ミーティング時などでも話し合い、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や、家族の思いや意向を聞き取り、職員の意見交換をモニタリング、カンファレンスに活かすようにしている。	介護計画を、基本3か月毎に見直ししており、利用者の現状に合うように取り組んでいる。担当者と計画作成担当者を中心に、日頃の申し送りノート等を活用しながら、利用者の状態の把握に努め、3か月でモニタリングを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録には、食事量、バイタル、入浴等、日々の暮らしの様子を記録し、職員間で情報を共有できるようにしている。ケアプランに沿った記録を行い、見直しや立案に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的受診や体調不良時の受診は、家族付き添いにて行って頂いているが、家族の状況や、緊急時はホームで臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	katte	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月定期的に来て下さるボランティアさんや、地域のボランティアさんを対象にボランティア会（バーベキュー）を開催している。小・中学校とも関わりがあり、警察、消防、民生委員等、何かあった時に協力をお願いしている。定期的に訪問理由にも来て頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医に、家族付き添いにて受診をして頂いている。適切な医療や支援を行えるよう、必要に応じ書面にて様子を伝えている。体調異変時には、その都度家族と相談している。	ホームでは、利用者の多くが希望のかかりつけ医を継続しており、受診に関しても家族で対応している。ホームからは、利用者に関する情報提供を行い、受診に関する支援を行っている。なお、現状は、協力医による定期的な訪問診療等は行われていない。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員がいる為、日常の健康管理や医療活用の支援、緊急時に対する勉強会も行うことができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、安心して治療できるよう、入院時の様子を見に行ったり、病院関係者との情報交換や相談を行なっている。また、退院時には、退院後の生活支援について、医師、家族、本人と話し合いながら決定している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・本人と繰り返し話し合い、状態の変化があるごとに、本人・家族の気持ちに注意を払い、方針を共有し、支援に繋げている。	ホームでの対応に限界があることもあり、現状、看取り支援を行っていないことを家族にも説明している。運営法人が複数の特養を運営していることもあり、家族とも話し合いながら、特養での受け入れが可能な場合には、特養へ移っていただくこともある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	市の出前講座を利用し、消防署員による、人工呼吸、心臓マッサージなどの救急救命の講習を定期的に行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の扱い方などの訓練を実施している。また、市の出前講座による、防災教室も受講。普段は、防災ラジオによって災害の情報を得ている。	ホームでは、年2回の避難訓練を実施しており、通報装置を用いた訓練や消防署の協力を得た学習会の機会も得られている。また、近隣に住んでいる職員が多い他、ホーム内に、水、食料等の備蓄を、ホーム2階の倉庫に確保している。	地域の方にも知ってもらうために、現状も行っている運営推進会議を活用した訓練や講習等の活動の継続に期待したい。また、備蓄状況をリスト化しながら、職員間で共有できる取り組みにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	katte	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の行動を温かく見守り、不安を取り除くような会話に努めたり、プライバシーを損ねないような対応の徹底を図っている。	職員は、日常生活の中で、利用者に「ありがとう」と言えるような関係をつくりながら、その方の人格を尊重するように努めている。また、管理者は、職員に対しては、自らが模範となって示すような取り組みにも努めている。	利用者にさりげなく「ありがとう」と言える関係は、利用者の前向きな意欲を引き出すことにもつながる。一人ひとりの人格を尊重した対応を今後も期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で常に声掛けや様子を観察し、入居者の方に自己決定しやすいように、疑問文で問いかけるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の意見、意欲に沿って生活を支援をしている。その方のペースに合わせて、食事や入浴、掃除等、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や、洋服の身だしなみなど、本人の意向を尊重し、援助している。ホームでの訪問理容も利用できるが、本人の望む店に行けるよう支援もしている。ネイルボランティアさんにも来て頂き、おしゃれを楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に献立を考え、食材の買い出しにも同行して頂いている。食事の準備、調理、片付けにも参加して頂き、食事は職員も一緒に取り、団欒の時間となるよう努めている。誕生日にはその方の希望する献立を提供している。	日頃のメニューに関しては、職員が利用者を確認しながら考え、買い物に出かけて食材を購入している。利用者も調理から片付けまで、できることに参加している。また、刻み食に対応したり、おやつ作りや外食の機会もつくっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量摂取量を記入し、チェックを行っている。水分摂取の少ない方には声掛けを行なって飲んで頂いたり、スポーツドリンクを提供し水分摂取に努めている。就寝前には、自室にお茶を持って行かれる方もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛け、見守り介助を行っている。義歯の方は就寝前に外し、洗浄し各々のケースに保管している。		

自己	外部	項目	自己評価	katte	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔等を把握し、声掛け誘導し、トイレでの排泄を支援している。尿意の分からない方、後始末の難しい方などには、本人の気持ちに配慮し、さりげなく介助を行なっている。	ホームでは、個人記録に利用者の排泄記録を残しており、職員は排せつ状態と時間を勘案しながら、トイレへの案内を行っている。また、現状、布パンツの方が多く生活しており、その方々の状態が維持できるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルトを取り入れている。自然排便が出来るよう、水分摂取や、一緒に掃除を行ったりして、活動の機会を持って頂けるように支援している。また、食事内容や、必要に応じて、薬の使用によってコントロールするなど、健康面でもサポートしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間や、湯温等、本人の希望を伺いゆっくりと楽しんで入浴できるよう支援している。	ホームは、基本週3回、入浴してもらうように取り組んでおり、時間は午後から夕方に行っている。現状、全員が浴槽をまたぐことができるため、職員は見守り中心となっている。また、柚子や菖蒲等の季節の楽しみもとりに入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活スタイルを受容し、楽しく穏やかに過ぎて頂けるように支援している。家事やレクリエーションに参加して頂くことで、良眠への支援に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬内容がケース記録にファイルされ、各職員が確認できるようになっている。服薬時は飲み終わるまで確認している。処方や、状態の変化が見られた時は、申し送りノートにて確認し合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活習慣やできる事、できない事を把握し、日々の生活の中での楽しみや、趣味の支援を行っている。毎月の行事にて、外出や催し物を計画し楽しんで頂けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の散歩や買い物で戸外に出掛け、季節の変化を感じ取って頂いたり、気分転換を図って頂くよう支援している。本人の思いに沿って墓参りや家族との外出などで、一緒に過ごす時間を持てるように支援している。	ホームでは、日常的に食材の購入に利用者を出かけており、利用者の外出の機会をつくるように取り組んでいる。さらに、季節にあわせた外出を行ったり、市外へ遠出をする機会をつくっており、利用者の楽しみにもなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	katte	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員付き添いのもと、毎日の買い物時、個々の力の応じて支払いをして頂くよう支援している。ホームが入居者の金銭を預かり管理しており、必要に応じて個々の欲しい物を購入している。毎月、家族には収支の確認をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に応じて、いつでも電話や手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の大きな窓からは、季節の花や、畑には野菜が植えられて(春・夏季)いるのが見え、季節を感じる事ができる。日差しの調整には障子戸が入っており、食卓には入居者の方が生けてくれた、季節の花を飾っている。	リビングは、十分な広さがあることで、時には一人になれる場所も確保されている。さらに、そのリビングが南を向いていることで採光にも優れており、利用者はゆったりと過ごすことができる。また、庭には畑があり、季節の花や野菜を育てている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の部屋は3ヶ所あり、それぞれが思い思いに過ごされている。気の合った者同士でテレビを見たり雑談されている。また、静かに新聞や本を読んでいる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具を持って来て頂いており、仏壇を持参されている方もいる。ご家族や、昔の写真を飾ったり、使い慣れた日用品を持参される事で、本人が居心地良く過して頂けるように配慮している。	居室には利用者の鏡台をはじめとする家具類や自分のベッドが持ち込まれたり、家族の写真を飾っている方もおり、その人らしい居室づくりを行っている。また、ホームでは、可能な限り、利用者自身で掃除をするように取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常的に使用するトイレには分かりやすいように表示をしたり、居室入口には表札を付け、混乱のないようにしている。また、玄関には靴の脱ぎ履きがしやすいようベンチを設置している。		

(別紙4(2))

事業所名グループホームすずらん

目標達成計画

作成日: 平成 25 年 10 月 25 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	消防署の協力にて年2回の避難訓練を実施しているが、夜間は職員1人の為、確実な避難誘導が難しい。	確実な避難誘導ができるようにする。	夜間を想定して、1人での避難訓練を実施する。運営推進会議にて、地域の方に協力を得られるように話し合い、体制作りに取り組む。	12ヶ月
2	35	災害時、施設内外の危険箇所の把握をする。	安全、安心して生活して頂ける環境作りに努める。	2ヶ月に一回点検を行い、危険箇所を把握し、必要ならば修理を行なう。(依頼する)	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。